

第14回 桃太郎カップ水球 【戦評】

会場：倉敷市屋内水泳センター

【2021/12/26】

男子準々決勝

滋賀県選抜

7

3	—	3
2	—	2
1	—	0
1	—	1

6 高知県選抜

PSO

御崎 智徳

審判:

橋本 寛一

滋賀県選抜	20	SH数	13	高知県選抜
	2	速攻数	1	
	10	ST・SB	6	
	3	SH・P誘発アシスト	4	
	40%	GK阻止率	36%	
	5	EX反則数	6	

ST・SB:ボール奪取・SH阻止

【試合の流れ】

両チーム少人数で、かつ、ややディフェンス面に課題のあるという特徴も似通っていて、接戦が予想される準々決勝戦。滋賀は高知のローリーの攻撃をどこまで食い止められるかが勝負の分かれ目となる。

1P

滋賀のパスミスから高知がペナルティを誘発し、そこをローリーが決めて先制するが、すかさず滋賀は高知のシュートミスを超えてミドルシュートを決めて応酬し、その後は高知はローリーにボールを集めて加点。対する滋賀も清水のセンターシュートなどで加点するなど、戦前の予想通り、序盤は攻撃のたびに点数が入るという「ノーガード」状態で展開。結局3-3のタイスコアで第1ピリオドを終了した。

2P

第2ピリオドも似たような展開で、先手を取ったのは高知。滋賀の攻撃時反則からゴール前でペナルティを誘発、またもやローリーが決めてリード。しかし、今度は高知側の攻撃時反則からゴール前で滋賀がペナルティを誘発して、三輪が決めて再び同点に。その後も、滋賀、高知ともに1点を取り合って、滋賀5-5高知という拮抗した展開で前半を折り返した。

3P

このピリオドは、高知のローリーにほとんどシュートする場面がなく、また滋賀側もなかなかシュートにまで持ち込めない展開となって、長いラリーが続いた。高知側のボール接点で滋賀にボールを奪われ、滋賀・三輪にペナルティを取られて、そこで滋賀が決めてようやく1点リード。滋賀側は攻撃中の反則がこのピリオド目立ち、なかなか攻撃リズムが作れなかっただけに値千金のペナルティ得点であった。滋賀6-5高知という状況で勝負は最終ピリオドとなった。

4P

最終ピリオドに入ると、両チームともにテンションが上がった攻防が続き、途中でのミスもそれほどない形での長いラリーとなったが、滋賀のシュートミスから高知が数少ない速攻に出て、そこで退水を奪ってローリーが決めて、滋賀6-6高知と同点になった(1:58)。残り時間、お互いに死力尽くしての見ごたえのある攻防となり、このままPSOに持ち込まれるかという局面で、高知はボール展開中に滋賀にスチールされ、そこを伊藤が必死に中央突破で最後まで泳ぎ抜き、懸命に戻る高知ディフェンスを振り切った速攻SHを決めたのが残り4秒。これが決勝点となって滋賀7-6高知という結果となった。

【プレー分析から】

高知のシュートのほとんどがローリーで、かつ得点全てが彼によるものということが示すように、攻撃の起点が限られてしまった形。1回戦の東京戦ではもう少し幅のある攻撃ができていたが、それだけ滋賀が的を絞った対策がなされていたとも言える形。

対する滋賀は、攻撃中の反則が6本と多く、攻撃リズムを自ら手放す場面が目立った。

戦前の予想通り、組織的な速攻攻撃はほとんど繰り出さないチーム同士ということもあり、第1ピリオドを除くとなかなかシュートにまで持ち込めない展開が続いた。しかし、お互いに最終ピリオドには積極的に泳いで活路を開こうというプレーが随所に見られたことを考えると、ある意味、「やればできる」潜在性を秘めているチームということが出来る。最後の必死の攻防は、今後の財産となったような展開だったので、これからの成長を期待したい。